

コロナ感染症から子どもと教育を守ろう！(19)

新型コロナウイルスに関する通知などの情報や、府高教のとりくみ、現場の声をお伝えします。

今こそ少人数学級を全校種に広げよう！

小学校は41年ぶりに全学年で定数改善！今年も「えがお署名」にご協力を

3月31日、「公立義務教育諸学校の学級編成及び教職員定数の標準に関する法律」の一部改正が成立し、4月1日から小学校2年生の学級編成標準が「35人」となりました。学年進行で今後5年かけて小学校全学年が35人となります。これは、2011年に小1が35人となったのに続くもので、全学年での改正は実に41年ぶりです。

この背景にあるのは、長年にわたって保護者・国民と手を携えて教育全国署名を積み上げてきた私たちの運動があります。同時に、コロナ禍のもと、分散登校で“実現”した「20人学級」の経験が契機

となって、オール教育現場をはじめとした国民的世論が大きく高まったことがあります。国民の声と運動が、文科省を動かし財務省の壁を突き崩したことは重要な到達です。しかし、前進をここでとどめてはなりません。みんなの声で少人数学級を高校まで実現しましょう！



大阪も続け！

山口県、全高校生にPCR検査 教職員含め4万人 (中国新聞 5/11)

山口県の村岡嗣政知事は11日、県内の全ての高校の生徒と教職員に新型コロナウイルスのPCR検査を一斉に実施することを明らかにした。対象は約4万人に上り、安心して高校生活を送れる環境をつくる。県によると全国初の取り組みとなる。

県立62校、市立1校、私立23校の計86校で今月中旬～6月上旬に検査する。料金は無料。生徒と保護者の同意を得て任意で実施する。各校に検査キットを配り、検査を委託する民間業者に検体を送る。事業費は1人当たり5千円で約2億円を見込み、当初予算を活用する。夏の全国高校総体や高校野球の甲子園大会などの県予選が始まることを念頭に独自策を考えた。一斉検査後も来年3月まで、県外での修学旅行、スポーツや文化活動の大会に参加して山口県に戻ってきた際などにも検査を随時受けられるようにする。



市内支部Bさん

大阪市立の小学校では、緊急事態宣言後、1・2時間目は自宅学習（プリント、オンライン）、3・4時間目は登校・給食、午後から下校で自宅学習という対応を行っています。感染症対策なのに高リスクの一斉給食を行うのも疑問。特に障害のある子どもや、低学年の子どもがいる保護者は対応が大変。「臨時休業」でない部分的な登校なので府立教職員は「職免」対応になりません。府としても当初想定していない事態に迅速・柔軟に対応してほしい。

現場の状況、声を届けてください osakafuko@kind.ocn.ne.jp

「仕方がない」をみんなで変える！あなたも府高教へ！／